



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 創立50周年記念シンポジウムの開催報告 (速報)
- 2-私の提言 オンライン研修を機に教育訓練の仕組みの見直しを
- 2-ルポルタージュ JSQC規格「小集団改善活動の指針」講習会ルポ
- 3-大久保尚武氏、旭日重光章を受章/2021年3月の入会者紹介/教員公募/第1回コロナキルポ
- 4-行事案内/選挙告示/論文募集

創立50周年記念シンポジウムの開催報告 (速報)

50周年記念事業実行委員会WGリーダー 金子 雅明

当学会創立50周年記念シンポジウムは、2021年5月28日(金)13:00~17:40に東京都新宿区にあります早稲田大学大隈記念講堂小講堂より完全オンラインで開催しました。事前の参加申込者数は152名で、当日アクセスされた総人数は138名(会場関係者含む)であり、時間帯別でも終始120~130前後のアクセス数を維持し、多くの方に最後まで視聴いただきました。

コロナ禍における参加者の安全確保の観点から、祝賀会は苦渋の決断でしたが中止となり、また対面開催から完全オンライン開催となりました。昨年より当学会ではJSQC規格講習会などの行事をオンライン開催で実施しはじめていましたが、周年事業としては本学会初の試みでした。私自身もこのような大規模行事の担当は経験がほぼなく、大変懸念していましたが、学会理事や事務局、及び関係者各位のご協力により、何とか無事に終わられました。ここに厚く、お礼申し上げます。

記念シンポジウムは予定通り、13:00よりオンライン配信開始されました。まず、二橋会長より開催挨拶として、当学会が50周年を迎えられたことに対する学会関係者への感謝の言葉をお示しになられ、学会が今後果たすべき役割を共有する機会としたい旨、ご発言がありました。永田副会長からは、学会がこれまで歩んだ50年の軌跡のご説明があり、未来への突破口を見出すための顧客価値創造活動と基本的な従来型品質管理活動の徹底の2本柱が重要だ

とした上で、新たな気持ちで学会員の皆様とより一層アクティブに活動を進めたいと述べられました。再び、二橋会長より当学会が目指すべき姿として次期中期計画の概要とその具体的な取り組みのご紹介がなされ、これらの学会活動を通じてTQMの方法論の追求と社会への推進し、その結果として日本産業の国際競争力向上につなげることが当学会の使命であると明言されました。

その後、前田建設工業株式会社・常任顧問・小原好一氏からは当学会が目すべき「エクセレントサービス」の概念や重要性と、それらの実現のためにはIoT、AIなどのデジタル技術を駆使することの有用性、可能性をご提言いただきました。内閣府知的財産戦略推進事務局・参事官・小林英司氏からは、内閣府が目指す価値デザイン社会・Society5.0の取り組みの背景と目的、その実現ツールである経営デザインシートの利用方法やその有効性をご紹介いただきました。当学会が目指す品質経営、TQMとその方向性は共通であり、今後も内閣府との連携強化が期待される内容でした。最後の講演者は東京理科大学・名誉教授・狩野紀昭氏です。Kanoモデルとも称される「魅力的品質と当り前品質」とそれに基づく魅力的品質創造の方法論や、維持・問題解決・課題達成を包括する統括的品質改善手順、さらには新型コロナウイルスへの社会品質のあるべき構造を考察され、品質管理が激動の時代を生き抜くための有用な方法であることを改めてご提示いただきました。

その後、永田副会長がファシリテーターを務め、他の講演者をパネリストとしたパネル討論「これからの品質経営と本学会が果たすべき役割とは？」を行いました。オンライン参加者から6つほどの質問が寄せられましたので、永田副会長から質問内容の紹介がなされ、パネリストからご回答されました。また、パネリストではありませんでしたが、当日会場関係者として来場されておりました前会長・棟近雅彦氏が急遽ご登壇されてオンライン参加者からのご質問に回答されるなど、活発な議論が行われました。

その後、経済産業省・産業技術環境局国際標準課・課長・黒田浩司氏、及び公益社団法人日本経営工学会・第36期会長・大野高裕氏のお二人からは、これまでの学会活動に対する感謝とともに今後の当学会活動への期待、激励など大変ありがたい祝辞をいただきました。

最後の閉会の辞では、当学会副会長である若林宏之氏から本シンポジウムの総括がなされ、当学会のミッション、ビジョンを改めて認識した上で、3つのQ、すなわちQの確保、Qの展開、Qの創造を推進し、激動する変化の時代に生き抜くための方法論の確立を通じて、学会のプレゼンスを高めていきたいとお言葉で締めくくられました。

記念シンポジウムにご参加いただいた学会員・関係団体の皆様、そして開催の企画や準備やその支援をいただいた関係者各位に対して、改めて深くお礼申し上げます。

● 私の提言 ●

オンライン研修を機に教育訓練の仕組みの見直しを

静岡大学 梶原 千里



新型コロナウイルスを契機に、オンライン授業・研修の普及が進みました。大学はオンライン授業の実施が余儀なくされ、

昨年度はその対応に追われる日々でしたが、ようやく教員、学生ともに慣れてきました。大学の授業以外でも、私は本学会の医療の質・安全部会が主催する「医療のための質マネジメント基礎講座」のオンライン化に取り組みました。

この講座は、医療の質・安全の向上を目的とした、医療従事者向けのQMS教育コースです。転倒転落事故防止といった医療に特化した内容だけでな

く、標準化、文書管理などのQMSの基本的な考え方や活動に関する内容も含まれていることが特徴です。2007年度の講座開始当初から集合研修で実施してきましたが、コロナを契機に昨年度からオンデマンド型コンテンツを作成し、配信しています。このような状況下なので、申込者は少ないと予想していましたが、結果的には集合研修時よりも増加しました。オンラインの強みをいかし、同じ組織の方ならば、期間中は誰でも何度でも受講できるという団体プランを導入したのですが、これが多忙な病院の方々のニーズにマッチしたようです。

一方で、すべての単元でオンデマンド型が最適な手段ではないという課題もあります。例えば、危険予知トレーニングなどは、演習が不可欠です。当

面は、Zoomなどを用いたリアルタイム型でこれらを実施する方針ですが、いずれは対面とオンラインを併用する予定です。座学が主体の単元はオンラインで、演習を行う単元は対面で実施することで、オンラインのよさをいかしつつ、演習効果の向上や受講者間交流も可能となり、より魅力的な講座となるでしょう。

大切なことは、オンライン研修になったとしても、育てたい人材像と教育目標を明確にし、それを達成できるような教育研修体系を整え、各内容を習得してもらうために最も効果的な手段を選定していくことだと考えます。対面で行っていたことをそのままオンラインで実施しても、効果が得られない場合があり、教育内容の見直しも必要かもしれません。人材育成はTQMで特に重視されていますが、昨年度の活動を通して、改めて教育の体系的管理の大切さを実感しています。経営環境も大きく変わりつつある今、教育訓練の仕組みを振り返られてみてはいかがでしょうか。

JSQC規格
講習会
レポート小集団改善活動の指針
「小集団改善活動を
推進する」

2021年4月22日(木)午後、JSQC規格「小集団改善活動の指針」講習会がオンラインで開催された。参加者数は53名、この内東京含む関東地区からの参加が64%、関西地区が18%、自宅からの参加者28%、会社からの参加者70%と会社からのオンライン参加が多くを占めた。

齊藤事業・広報委員長からの開催挨拶に続いて、「小集団改善活動の指針」原案作成委員会の村川賢司委員より講演を開始した。本規格は2015年5月に制定し、規格の狙いはTQMの一貫として、組織において行うことが推奨される小集団改善活動の推進の方法を規定しており、小集団改善活動に関わる重要な概念および推進方法に関して、学会として統一的な見解を示し、総合的品質管理(TQM)のさらなる普及・発展のための基盤を提供することを目的としている。また、本規格は改善活動を既に推進している組織、主に①TQMを実

践している組織 ②QCサークル等を推進・実践している組織 ③ISO9001等の制定及びそれを用いた認証制度を運用・活用している組織を主に対象としており、改善活動をより充実し効果的なものにするため本規格の活用を推奨する。村川講師の講習内容としては、①小集団改善活動の基本、②チーム改善活動の推進、③QCサークル活動の推進、④小集団改善活動における管理者の役割について、規格に基づいて詳細な説明が行われた。

最後の質疑応答では、「QCサークルの自主性がみられない」「問題解決型のQCストーリーの具体的活用方法」「DMAICに関する参考文献はあるか」「プロセスマップを作る際のプロセスの考え方」「賞金額の目安」「チーム改善活動とQCサークルの違い」「チーム改善活動にプロジェクトマネジメント手法(PMBOK)の適用できないか」等の多岐に渡り質問や意見が示され、司会、講師、受講者間での意見交換がなされた。

終了時のオンラインアンケートでは、十分あるいはほとんど理解できたという回答が大半を占め、受講者にとって有効な機会となった。

澤村 祐一(三菱重工環境・化学エンジニアリング株)

大久保尚武氏、旭日重光章を受章

本学会元会長 名誉会員の積水化学工業(株)名誉顧問 大久保尚武氏が、春の叙勲で標記の勲章を受章されました。

同氏は社長就任時の赤字体質を、徹底した経営合理化、体制整備、人材育成、事業分野の拡大、新技術・製品の開発、社会的な課題解決型事業の推進等によって、同社の今日の高収益体質の基礎を築き上げられました。

また業界団体や経済団体の要職を歴任し経済社会に多大な貢献をされ、デミング賞本賞も受賞されています。

大久保氏の益々のご活躍を祈念するとともに、心からお祝い申し上げます。

教員公募

明治大学 工学部 機械情報工学科

募集人員	専任准教授または専任講師1名(独立研究室)
所属	明治大学工学部機械情報工学科
専門分野	知覚情報処理、知能ロボティクス、知能情報学、ヒューマンインターフェース・インタラクションおよびその関連分野
着任時期	2022年4月1日(金)
選考方法	書類による一次審査を行い、その合格者に対して面接試問(プレゼンテーションを含む)による二次審査を実施する
応募締切	2021年8月23日(月)必着
詳細	工学部教員公募ページ https://www.meiji.ac.jp/sst/recruit/ 機械情報工学科公募ページ https://www.messe.meiji.ac.jp/koubo/koubo.html

2021年3月の入会者紹介

2021年3月19日の理事会において、下記の通り正会員7名、準会員9名、賛助会員1社1口の入会が承認されました。

.....
(正会員7名) ○天倉 理絵(松山油脂) ○山本 尚(積水化学工業) ○上中 浩幸(マネジメントシステム評価センター) ○保科 昌彦(SONY LSI Design) ○新開 晴仁(小金井市教育委員会) ○山田 加生里(旭化成エレクトロニクス) ○荒川 智弘(名古屋工業大学)

.....
(準会員9名) ○村田 樹咲(青山学院大学) ○朱 睿・石川 琢誠(中央大学) ○小堤 瞭・陳 愉寧(早稲田大学) ○白倉 翔磨(千葉工業大学) ○藤岡 健太郎・芦澤 諒哉(電気通信大学) ○太田 響喜(名古屋工業大学)

.....
(賛助会員1社1口) ○ミットヨ

.....
名誉会員：20名
正会員：1699名
準会員：72名
職域会員：51名
賛助会員：152社224口
賛助職域会員：11名
公共会員：17口

第1回 コロキウム ルポ

With Corona/ After Corona時代の 品質マネジメント

コロキウムとは、2人以上の間で発生する会話であったり、限られた数の人々が特定のトピックについて議論する会議を意味する。今回は学会初のコロキウム形式で、オンラインで全国の会員が参加しコロナ渦での品質管理の悩みを共有しヒントを得ることを目的に開催された。内容は、冒頭に東京都市大学の兼子毅先生が講演した後、5名程度の小グループに分かれてブレークアウトセッションを行い、最後に兼子先生がセッションの結果を解説するものだった。

兼子先生の講演では、企業や教育現場においてコロナの影響で現地に集合しにくい、全員参加・小集団改善活動・三現主義が難しくなっていること。各種ITツールの利用が急速に進んだこと。コミュニケー

ションはメラビアンの法則が示すように視覚情報・聴覚情報の役割が大きいITツールではそれらが伝わりにくいことを解説した。

ブレークアウトセッションでは「足りない要素は何か、それを補う方策」をテーマに議論した。SlidoというITツールを使いリアルタイムで各チームの意見を見ながら議論でき、活発だった。

最後にセッションで挙がった100件近く意見を、兼子先生が解説をした。主な意見は「現場がわかりにくい」「対面の機会が減りニュアンスが伝わらない」等オンラインの限界を感じる声が多かった。一方で「本社でベテランが現地の若手をオンラインで指導できるようになった」「監査をTV会議で行った結果、聴講での参加が増えた結果、品質管理の状況を共有できた」「ITツールを活用して無駄を省けた」という事例もあった。『変化するものが生き残る』…現代のコロナにも当てはまると思った。

茨木 陽介 (ITコーディネータ)

行事案内

●第142回講演会（関西）

テーマ：多様性の受け入れを阻むものは何か？

～真なるD&Iを目指して～

日時：2021年6月18日(金) 13:30～16:30

会場：Zoom会議室（オンライン）

プログラム：

講演1：女性がより一層活躍できる環境づくりと企業の取り組み

日高 乃里子氏（元 帝人）

講演2：企業におけるLGBT+支援の取り組み

梅田 恵氏

（元日本IBM/EY Japan）

パネルディスカッション

申込先：関西支部事務局

詳細：https://jsqc.org/142th_kouenkai/

●第128回QCサロン（関西）

テーマ：江戸時代の品質保証

ゲスト：斎藤 彰氏（村田製作所）

日時：2021年6月21日(月) 19:00～20:30

会場：Zoom会議室（オンライン）

申込先：関西支部事務局

詳細：https://jsqc.org/128qcsalon/

●第2回特別座談会

TQM推進の勘所—先人の知恵を借り—

日時：2021年7月9日(金) 13:00～18:00

会場：Zoom会議室（オンライン）

プログラム：

1. (株)ジーシーにおけるGQM推進の道のり
武石 健嗣氏（元ジーシー）

2. コニカミノルタ(株)におけるプロセス改善の推進
須加尾 政一氏

（Q&SGA研究所/元コニカミノルタ）

3. ソフトウェア開発の定量化と成功要因の分析による改善活動の推進
菅田 直美氏（イデソン/元日本電気）

4. サンデンにおけるTQMの推進
藤井 暢純氏

（グローバル品質経営研究所/元サンデン）

5. 座談会

司会：中條 武志氏（中央大学）

申込締切：2021年7月2日(金)

詳細・申込：https://jsqc.org/2nd_zadankai/

●第173回シンポジウム（中部）

テーマ：「価値デザイン社会」を考える

日時：2021年7月14日(水) 13:15～17:00

会場：オンライン開催

プログラム：

1. 特別講演：価値デザイン社会の実現に向けて

小林 英司氏（内閣府）

2. 基調講演：イノベーションを創生する新しい時代の思考

丸山 一彦氏（和光大学）

3. 事例講演：必要な移動を楽しい移動へ

江里口 真朗氏（ソニーグループ）

4. 事例講演：三井物産における価値創造

下村 正樹氏（三井物産）

5. パネル討論

これからの品質経営と本学会が果たすべき役割とは？

ファシリテーター：古谷 健夫氏

（クオリティ・クリエーション）

パネリスト：上記講演者

申込締切：2021年7月7日(水)

詳細・申込：https://jsqc.org/173_chuubu_symposium/

●第123回クオリティトーク（東日本）

テーマ：オンラインでの海外TQM指導

四方山話（仮）

ゲスト：狩野 紀昭氏（東京理科大学）

日時：2021年7月16日(金) 18:00～20:00

会場：Zoom会議室（オンライン）

詳細・申込：https://jsqc.org/123qtalk/

●第426回事業所見学会（関西）

テーマ：ニューノーマル下でのIAQ（空気の品質）、AI・IoTを活用した品質改善の取り組み

日時：2021年8月17日(火) 13:30～16:15

見学先：フーハ大阪（ダイキン工業）

定員：20名

申込先：関西支部事務局

詳細：https://jsqc.org/426th_kengakukai/

●第129回QCサロン（関西）

テーマ：デジタル人材の社内育成プログラム

～ダイキン情報技術大学～

代議員・役員選挙告示

日本品質管理学会第51年度～第52年度（2021年11月13日総会～2023年総会）の代議員ならびに役員選挙を次の日程で行います。

立候補・推薦受付：

6月21日(月)～30日(水)

投票依頼：7月28日(水)～30日(金)

投票締切日：8月31日(火)

開票日：9月8日(水)

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、研究速報論文、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

ゲスト：下津 直武氏（ダイキン工業）

日時：2021年8月23日(月) 19:00～20:30

会場：Zoom会議室（オンライン）

申込先：関西支部事務局

詳細：https://jsqc.org/129qcsalon/

●第126回研究発表会（中部）

日時：2021年8月25日(水)

会場：Zoom会議室（オンライン）

申込締切：2021年8月18日(水)

●第127回研究発表会（関西）発表募集

日時：2021年9月17日(金)

会場：Zoom会議室（オンライン）

申込締切：発表申込締切：7月5日(月)

予稿原稿締切：8月27日(金)必着

申込先：関西支部事務局

詳細：https://jsqc.org/127th_kenkyu_apply/

事務局

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：E-mail：jimukyoku@jsqc.org

中部支部：E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

TEL：050-1742-6188

（6/1より電話番号が変更となりました）

関西支部：E-mail：kansai@jsqc.org